

5月

カトリック麹町教会

MAGIS

マジス = 「より、もっと、さらに」

教会テーマ

イエスにつながり 互いを受け入れ 御父の家へ ともに歩もう



▲赤ちゃんとハイタッチ！

聖イグナチオ教会における 子どもと若者への信仰教育

助任司祭 ボニー・ジェームス

2019年1月13日 日曜日、ローマのシステリーナ礼拝堂のミサで、教皇フランシスコは27人の赤ちゃんに洗礼を授け、「子どもたちが信仰を学び、あかしする最初の場所は家庭である」と、親たちを含め集まっていた人々に向けて語られました。彼は子どもたちの両親に「十字架のしるしのやり方を教えることによって、または言葉と模範を通して」子どもたちに信仰を伝えるようにと強く勧めました。

教会学校

聖イグナチオ教会には伝統的に土曜学校と日曜学校という2つの教会学校が存在します。これらの教会学校を通して子どもたちは家庭で受けた信仰の種を成長させ、キリスト教信仰の基本的な祈りなどを学び、と共に、教会共同体の中で育てられていきます。この他に中学生会、高校生会、侍者会もあります。子どもたちの成長に伴って、信仰教育を継続できるようにこれらの会があります。

他言語の子どもたちの教会学校

聖イグナチオ教会にはたくさんの外国籍の子どもも通っていますが、日本語が母国語ではない子どもたちのためにイングリッシュセン

ターが主体となり Sunday School (日曜学校) も行っています。12時の英語ミサに参加する子どもたちを集めて、簡単な祈りや神さまのお話しをするエンジェルズ (Angels) はその一つです。 Sunday School として他に、子どもたちの年齢ごとに、小学生クラス、中学生クラス、高校生クラスといった3つのクラスがあります。

日本語と英語で一年をかけて行われているこれらの教会学校で信仰を学んだ子どもたちが、初聖体と堅信式に向けて信仰を培かうための特別な準備クラスもあります。そして、毎年行われる夏キャンプや遠足、三年に一度の中学生会巡礼などが聖イグナチオ教会の教会学校の楽しいイベントです。

若者の信仰育成

聖イグナチオ教会では言語別 (日本語、英語、ベトナム語、インドネシア語) に4つの青年会が存在し、各青年会がミサや祈りの集い、キャンプや分かち合い、巡礼やボランティア活動などを通して信仰の育成や他者への

奉仕活動に取り組んでいます。これとは別に一年に一度行われるイグナチアン・ユース・デー (IYD) のイベントは、4言語の青年会のメンバーが集い、一緒に祈り分かち合う、文化的交流の場にもなっています。若者の教会離れが懸念されるこの時代に、聖イグナチオ教会に集まってくる多くの若者たちの姿を見ると、教会の将来が少し明るくなっているように感じます。聖イグナチオ教会のみならず、全世界の教会全体の未来の担い手である子どもと若者の信仰育成を全力で支えていくことが、教皇様がおっしゃるようにとても大切なことであり、教会の将来にかかわる課題でもあると思います。

教会報 MAGIS 5月号

† 四旬節黙想会	P2-3
† 2023年度信徒評議員	P4
† 教会活動グループ便り ③	P5
† 連載 光をつないで ⑤	P6
† Family of St. Ignatius ～英語圏から～	P7

※ "Children must see the faith lived at home, pope tells parents" Hanna Brockhaus (和訳), Catholic News Agency, Jan 13, 2019

【5月の共同祈願】

イエス様とつながっている私たちが、
お互いの違いを受け入れあい、
ともに歩いていけるように
マリア様、とりなして下さい。

担当：子どもとともにささげるミサグループ

【ミッション 2030 -前文-】

私たち聖イグナチオ教会は、
祈りに基づく使徒的共同体を生きていきます。
現代の社会は、命の軽視や孤独、過度の競争原理や格差、
環境破壊など、未来に希望を見出しにくい
反福音的なものに脅かされています。
それに対して、私たちは自分たちの殻に閉じこもることなく、
いつくしみの扉を開いていきます。
私たちは、同伴者イエス・キリストと心を合わせて、
貧しい人や弱い人の声を聴き、
皆でともに手をたずさえて(日本人も外国人も、若いも若きも)、
福音の喜びを分かち合っていく使命を生きていきます。

四旬節黙想会

「主のおん傷の中に入る
くきょうだいたちの痛みに出会うために」
をテーマに

3月21日(火・祝)、四旬節黙想会が行われました。主
聖堂参加者162名とオンライン視聴者とともに、仙台
教区の堀江節郎神父(イエズス会)のご指導のもと2部
構成で実施。ミサも含めて約2時間半、黙想のひとつとき
を過ごしました。(YouTubeにて動画配信中)

はじめに主任司祭(開催
当時)のサトルニノ・オチヨ
ア神父から堀江神父の略歴
が紹介されました。(右下
プロフィール参照)

第一部

アニマ・クリスティの祈り

本日の主題を通してお伝

えしたいのは、皆さん一人
ひとり、生きたキリスト
として歩み出して欲しいとい
うことです。「主のおん傷の
中に入る」とは、イエスさま
との一対一の出会いが実現
することで、それを祈りつつ
始めます。(左枠内参照)
今日のテーマはこの中に
あり、聖イグナチオが愛し

アニマ・クリスティの祈り

アニマ・クリスティ
(キリストの魂)
キリストの魂、私を聖化し
キリストの体、私を救い
キリストの血、私を酔わせ
キリストの脇腹から流れた水、
私を清め
キリストの受難、
私を強めてください

いつくしみ深いイエスよ、
私の祈りを聞き入れてください
あなたの傷のうちに私を包み
あなたから離れることのないよう
にしてください

悪魔のわなから私を守り
臨終の時に私を招き
みもとに引き寄せてください
すべての聖人とともに、いつまで
もあなたを
ほめたたえることができますように
アーメン



た祈りでもあります。

主のはらわたに入る

教皇フランシスコは著書
『使徒的勧告 喜びに喜び』
の中で同じことをおっしゃっ
ています。「キリストを目の
前にしてもなお、癒やされ
ることも変えられることも
ないならば、主のはらわた
の中に、主の傷の中に入り
なさい。神のいつくしみは
まさにその場所に宿ってい
るからです」

主のはらわたに入るとは、
神のいつくしみがあふれてい
る場所に入ること、神か
らの招きです。ヨハネ福音
書の中に「父が私を愛され
たように、私もあなたがた
を愛した。わたしの愛にと
どまりなさい」(15:9)、「渴
いている人は誰でも、私

堀江節郎神父 プロフィール

1939年 岩手県釜石市に生まれる
1970年 司祭叙階後、ブラジル各
地、東ティモールで47年
間海外で宣教に従事

2019年~仙台教区で司牧し、東日
本大震災の被災地に関わる。現在、
岩手県内すべての小教区を担当・
司牧している

「(7:37)とあります。そこ
に傷とは書かれています
が、どれもイエスさまご自
身の中に入ることを示しま
す。

主のおん傷への招き

前半の黙想のポイントは、
私たちがイエスさまに招か
れている傷口。その傷を見
れば、皆が何かを考えます。

イエスさまの傷は私たち
のために開かれた場所、彼
のすべての望みと計画のゴ
ールであり、私たちを守る隠
れ家(シエルター)でもあり
ます。かくまってもらうこと
で、イエスさまとの一対一
の出会いと対話が始まりま
す。

毎日の慌ただしい生活の
中で、イエスさまを求めて

その傷に入ると、自分の罪を発見したとしても恐れることがなくなりません。その傷は私たちのために開かれているからです。少し、振り返りましょう。
(15分間黙想の時を過ごしました)

第二部

イエスさまの傷に入り、本当に彼と出会っているとたくさんの人々との出会いが生まれてきます。傷を見ているうちに周りの人々の苦しみを共感でき、それが全世界へ広がっていきます。

Bom Jesus <6信>

ブラジルや東ティモールでの宣教の中で、祈りより活動に心が走ったこともありました。そんな時に唱えた「グアニマ・クリステイの祈り」は、今でも私にとって大きな支えです。

中でも Bom Jesus (ポルトガル語で「いつくしみ深いイエス」の意味)には、中世から特別な信心があります。辛い現実の中で Bom Jesus 像(赤マントを着てさげすまされたイエス)を拝

むと願いが叶えられるという希望があり安らぐ場でもあります。

ブラジルで苦しむ大衆の姿を見ていると、どのような状況でも文句を言わずに生き抜いていて、その強い精神をイエスさまからいただいたと感じました。教会が唯一のよりどころで、聖金曜日にはどんな人でも教会を訪れていました。

マタイ福音書25:35-40に最後の審判の基準が示されています。「あなたがたは、私が飢えていたときに食べさせ、喉が渴いていたときに飲ませ…この最も小さな者の一人にしたのは、すなわち、私にしたのである」

この場面はイエスさまが一番話したかったところで、神の子が Bom Jesus のような惨めな姿で立っているのを巡礼することで、私たちは世界中の苦しむイエスさまに出会えます。そしてこれはパウロが回心のときに彼から受けた言葉「サウル、サウル、なぜ、私を迫害するのか」(使徒言行録9:4)につながっていくのです。 Bom Jesus に立ち返って、傷の中にとどまりましょう。

傷は神の国のスラムである

日本にはスラムがないとよく言われます。スラムというのには、ちょうどイエスさまの傷のようなもので、居場所がない人はそこで生きていきます。しかし日本のようにスラムがない社会では、行き場がありません。

黙想会の準備をしながら気がついたのは、「本当は、どこにも居場所がなくて沈黙している人のために、イエスさまは心を開いてくれた。日本にとってスラムの代わりになるのは、苦しんでいる人々を目の前にして、私たちが立ち止まり心から迎えるに行くことではないか」でした。皆さんも黙想の時に思い出してください。

ブラジルのスラムの中には共同体が生まれていて、イエス・キリストを賛美するグループも無数あり、どんな人も受け入れ、誰に対しても開かれている場所です。今、被災地の活動では、来た人に「いらっしやい」「また来てね」の声掛けだけで、福音は語りません。イエスさまの傷とはそのようなもので、今自分が生

きているところにイエスさまの現存を感じています。それは、きつと皆さん一人ひとりの中にもあります。

キリストの贖いの業の完成

最後に皆さんに聖パウロの言葉を伝えます。「今私は、あなたがたのために喜んで苦しみを受けており、キリストの体である教会のために、キリストの苦難の欠けたところを、身をもって満たしています」(コロサイ1:24)

苦しんでいるイエスさまを見て聖人たちが「その苦しみを自分の力で支えてあげたい」思いに駆られたのは、イエスさまが「私と一緒にいてください」と頼んでおられるからです。人々を「この一人ひとりのためにイエスさまの傷が叫んでいる」という思いで見つめると、神から新たな語りかけがあり、いつくしみと愛の心が私たちをしっかりと捕まえてくださるでしょう。

後半私がお伝えしたのは、 Bom Jesus でした。 Bom Jesus が雑踏の中に傷を持って現れ、私たちを招いてくださるのを心から期待

します。
(20分間の黙想が行われました)

ミサ説教

聖書朗読を受け、堀江神父が語られました。「エゼキエル書(47:1-9,12)で神殿から流れ出た水は、イエスさまの傷から流れ出た救いの水。人類の乾きを満たします。またヨハネ福音書(5:1-3,5-16)の中で安息日に癒された男のように、私たちも今日、黙想会で同じように癒され、新しい出会いへと招かれています。どんな時も主が共におられ、たくさんの人に救いの水を注がれ、すべての被造物が生かされますように」



▲左から堀江節郎神父、サトルニノ・オチョア神父

2023年度信徒代表挨拶

塚本 京子

2023年度の信徒代表を務めさせていただきましたことになりました。塚本京子です。至らぬ点多々ありますが、聖イグナチオ教会の未来のためにできることから始めてまいります。

さて、今年度の教会テーマ「イエスにつながり 互いを受け入れ 御父の家へ」とともに歩もう」は、2020年以来コロナ禍で途切れてしまった教会とのつながり、信徒同志のつながりを一歩ずつ取り戻していくことへの言葉です。

ほとんどのミサの制約が解かれ、高齢者ミサ、ミサのオンライン配信が終了し、教会での活動ができるようになります。いつでもどこでもお祈りをすることはできますが、やはり教会という場所に集い、顔を合わせて活動できることは大きな喜びです。これを転機とし、献堂25周年(2024年)の記念行事に向けて様々な年代層、外国語圏の信徒の思いを集約させていくよう呼びかけてまいります。そしてミッション2030へとつないでいければと考えています。



▲2023年度信徒評議員

また、今年も次世代の教会共同体を担う若者12名がリスボンで開催されるワールドユースデーに派遣されます。この若い力が将来の聖イグナチオ教会の礎となるよう、どうぞ皆様お祈りとお力添えをお願いいたします。

新信徒評議員挨拶

(五十音順)

越智 通宣

子どもの頃に教会学校に通い、教会学校リーダーを経て、現在は子どもとともにささげるミサグループ、配信チームで典礼の奉仕をしています。コロナ以前の活気のある教会を取り戻したいと思っております。どうぞよろしくお祈りいたします。

久原 清治

これまでは主にミサの中の朗読を中心に教会に奉仕してまいりました。聖イグナチオ教会がより良くあるため、微力ながら皆様と力を合わせてまいります。ご指導の程よろしくお祈りいたします。

桑田 貴子

生まれた時から当教会で育ち半世紀、親子3代でお世話になっております。まだまだ未熟ですが、主の呼びかけに応え、教会が大きな家族として心安らぐ場所となりますよう、そして福音宣教へと繋がりますようによく祈り聖霊に聴きながら努めてまいります。どうぞ

お祈りとお力添えをお願いいたします。

眞鍋 まり

25年前に受洗し、クリーンアップ、メルキゼデクの会、四ツ谷おにぎり仲間そして侍者会等に携わりました。WYDや巡礼で受けた恵みが大きく、学生と歩み続ける仕事をしています。現在は、日曜学校で子どもがお世話になっていきます。

光藤 眞知子

聖堂係と植栽グループで奉仕をさせていただいております。お使いくださる神様に感謝。与えられた役目を、心を込めて、祈りと喜びのうちに果たしていこうと思っております。どうぞよろしくお祈りいたします。

榎 孝啓

1976年12月3日にフランシスコ・ザビエルの霊名で池尻廣幸神父様より受洗。金曜会講座で学び、教会学校リーダー、ミサ先唱、初期フォークミサメンバーとして活動。開かれた共同体の実現を目指し皆さんと歩んでいきたいと思っております。

2023年信徒評議員役割担当

(順不同)

信徒代表 塚本京子

副代表 岩崎準・谷口予里

書記 高橋宏樹・濱口雄幸・久原清治

眞鍋まり

会計 谷口予里・眞鍋まり

総務 岩崎準・谷口予里・久原清治

光藤眞知子

ミッション2030役割担当(4つの柱を軸に)

〈祈りを深める〉

・ 典礼 谷口予里・塚本京子・久原清治

光藤眞知子

〈福音を伝える〉

・ 広報 岩崎準・高橋宏樹・越智通宣

榎孝啓

・ 教会報 岩崎準・桑田貴子

〈共同体を生きる〉

・ 教会学校 谷口予里・眞鍋まり

・ 国際 岩崎準・桑田貴子

・ 活動グループ 高橋宏樹・濱口雄幸

越智通宣・久原清治

・ 信徒交流 高橋宏樹・眞鍋まり

・ 福祉関連 岩崎準・眞鍋まり

・ 講座 高橋宏樹・桑田貴子

〈新しい協働〉

・ 宣教協力体 塚本京子・濱口雄幸

桑田貴子・榎孝啓

〈ミッション2030小委員会〉

塚本京子・濱口雄幸・久原清治

光藤眞知子

〈ミッション2030PT〉

岩崎準・濱口雄幸・桑田貴子・眞鍋まり

活動グループ便り ③

各活動グループから、現在の活動状況の報告です

音訳サービス

教会報などを 音声データに

皆さんは「音訳」という言葉を聞いたことはありませんか？あまり耳慣れない言葉だと思えます。「音訳」とは、視覚障がいの方やその他の事情で文字などが読みづらい方のために、本や新聞などの文字情報を音声データにすることです。私たちは『カトリック新聞』、教会報『マジス』、『聖母の騎士』などの音声データを作っています。

「音声データ」の形態は、

日を追うごとに変化しています。以前はカセットテープに録音をしていましたが、今はデジタル録音で、利用者の方々にはCDをお送りしています。

音訳は「朗読」や「読み聞かせ」とは違います。目が不自由な方の目の代わりを読むのですから、自分の感情を入れてはいけません。でも内容として強調すべきところは少し気をつけて読む。など、音訳独特のルールがあります。

音訳サービスの活動は、全盲のお母様のために『カトリック新聞』を読んでいらした信徒の方をきっかけに始まりました。30年以上を経た今でも、目の前で大切な人が聞いている、そんな気持ちを大切に録音に臨んでいます。

お仲間募集中です！



※活動グループの活動内容・スケジュール等は変更になることがあります。また講座に初めて参加される方は、講座担当者か教会事務室にご確認ください。



ベルマークグループ

500万点を目指して 活動中

日頃よりベルマークの収集にご協力いただきありがとうございます。おかげさまで、昨年度分を整理集計し、4万068点をベルマーク財団を通して富士聖ヨハネ学園にお送りすることができました。コロナ禍にあっても、ベルマークをお届けくださったお一人お一人に心より感謝申し上げます。

ベルマークの活動には、①収集 ②分類 ③集計 ④集計表記入 ⑤財団にベルマークと集計表送付という5つの作業があります。ヨハネ学園では、財団に送った点数を使い、車椅子や行事



用のテント等、学園で必要な備品の購入に役立ててくださっています。

10年程前には、財団より400万点達成の嬉しいお知らせをいただきました。ベルマークは1点が1円に換算されますので、400万円分のご寄付ができたことになりました。現在500万点への階段をのぼっているところです。

ただ今、お手伝いくださる方を募集しています。毎月でなくとも可能な時間で大丈夫です。毎月第2火曜日10時から信徒会館404にお立ち寄りいただければ幸いです。

Sr.杉原法子 入門講座

み言葉を味わい、 分かち合い、学ぶ

Sr.杉原入門講座では未受洗者の方をはじめとし、受洗後2年目までの方を中心に、聖書を通してイエス・キリストの人となり、そのメッセージ(福音)を学び、祈りの体験を交えて人としての生き方を考える信仰への入門講座です。み言葉を味わいながら、分かち合い



を通して一年間キリスト教について、カトリック教会全般について、特に典礼と秘跡について学びます。受洗をご希望の方にはその準備をし、復活祭に兄弟姉妹にお迎えいたします。ご遠方の方や既に信者の方々は2021年度より感染症対策としてZoom配信を対面講座と併用し、どなたでもご参加いただけるようしております。対面で来られている方のご都合がつかない場合にもZoomでご参加いただけます。

また「祈りの体験」として一泊の黙想会を年に一度行っています。静寂の中で神さまと向き合い、心を神さまに向ける体験をします。講座は日曜午後4時〜5時半まで。講師は援助マリア修道会のSr.杉原法子です。お申し込みはメールで。 matenasuga@icloud.com

連載 光をつないで ⑤ 地図を手に求めた真理への旅路

「光をつないで」は、当教会の青年信徒が聞き手となり、信仰上の諸先輩からその人生と神との交わりについての話を聞くことで、神とともにこれからの人生を歩むためのヒントを得ることを目的とした連載です。5回目は、当教会信徒ヨハネ・フランシスコさん(78歳)に伺いました。

※語り手の名前は洗礼名

——受洗に至った経緯を教えてください。

大学進学を機に故郷の香川県から神戸に転居しまし

▶巡礼で訪れた、菜の花咲くガリラヤ湖畔



た。学生寮で同室になった同郷の先輩がプロテスタントの信者で、唯物論者だった私はよく彼と議論しました。また同級生に牧師の息子がおり、雑談の中で他人に尽くす彼の父親の生き様について話を聞きました。初めは反発心の強かったキリスト教に対する思いも、これらの出会いの中で次第に変わっていきました。

そうした心境の変化から、大学4年のとき「教会に行ってみよう」と思い立ちました。以前先輩が「俺の通っている教会だ」と、私の持っていた神戸市の地図に鉛筆で丸印をつけてくれていたことを思い出し、その地図を頼りに初めて教会を訪ねました。そこで出会った神学生から指導を受け、大学の

卒業式の翌日、1967年のイースターに受洗しました。教会帰りの喫茶店での語らい、神学校に泊まって皆で囲んだすき焼き鍋などが思い出されます。

東京での新生活と聖書研究会

就職のため、受洗のわずか数日後には神戸を離れなくてはなりません。通うべき教会を探し、やっと東京での生活が落ち着いてきたころ、社内に聖書研究会というものが存在することを知りました。社員10人ほどから成る小さな集まりで、牧師をお招きして話を聞くというものでした。当時は週6日働き、帰宅は23時頃になることもありました。日曜は教会で会計を任せられ、働きに行っているようなものでした。それでもこの月2回の聖書研究会は私にとって、砂漠の中のオアシスでした。

そのような日々の中、社内で妻と出会い結婚しました。妻は私の信じるキリスト教とは何なのか、真摯に向き合ってくれました。数年後、妻も受洗しました。

図書館でのカトリックとの出会い

受洗から30年ほど経ったある日、近所の図書館でピーター・ミルワード神父の本を手にしました。堅苦しい聖書解釈ではなく、心の奥底に届く内容を易しく伝えていました。マザー・テレサの本も読み、「同じキリスト教なのに、どうしてこうも生き方が違うのだろう」と不思議に思いました。家族を養いつつ司牧する牧師を見てきた私にとって、修道生活に入り、人生のすべてを懸けて奉仕の道を志す彼らの生き方は新鮮に映りました。

ミルワード神父の本のあとがきに、「興味がある方は四ツ谷の『かつらぎ会』に来るように」とありました。それで妻と2人でカトリック入門講座の「かつらぎ会」に通い、3年後夫婦でカトリックに改宗しました。

——改宗を経て得た気づきは何ですか？

すべては聖書の時代からずっと続いており、教会はその連続した流れの中に今も生き続けているのだと悟り

ました。改宗する前の私は、宗教改革のみに焦点が当たり、それ以前の分厚い歴史はすべて空白になっていたような感覚でした。典礼暦、巡礼地といった、伝統に裏打ちされた豊かな信仰の文化も知るようになりました。

プロテスタントを経たことは、私たち夫婦にとって意味のある過程であったと思います。教会生活の基礎をプロテスタントで身につけていたからこそ、カトリックのあたたかい雰囲気の中で、その恵みを十分に受けられているのだと思います。



改宗者の代父母を夫婦で務めることも多いというヨハネ・フランシスコさん。一体何がそこまで彼を魅了したのだろうか？言葉にならないカトリックらしさや魅力は、もしかしたら特段語られることのない体験——復活徹夜祭のろうそくの炎のゆらぎ、マリア祭でまかれた花びらと空の鮮やかさ、私たちをミサに呼び集める鐘の音：…の中に隠されているのかもしれないと思った。



●宣教司牧評議会からのお知らせ●

(4月13日開催)

1. ミッション2030小委員会の新委員が選出されました。ミッション2030プロジェクトチーム・活動グループ・信徒評議員等からのメンバーで構成されます。
2. 聖週間・復活祭の報告がありました。ミサの参加人数や枝の本数、歌声、イースターエッグ等、コロナ前の賑わいが戻って来ました。
3. 聖週間から復活祭にかけて主聖堂前で実施したトルコ南東部地震救援募金では、約90万円の寄付がありました。ご協力ありがとうございました。
4. アフターコロナの新しい共同体づくりに向けた取り組みについて、意見交換を行いました。

●聖体奉仕者に任命書●

東京大司教から、今年新たに当教会聖体奉仕者に任命され、任命書を授与された方は、以下の通りです。

高橋理香、谷津美恵子、和田啓子 (申請順、敬称略)

●財務報告●

4月7日(聖金曜日)の聖地のための献金 207,994 円は、ローマ教皇庁に送られ、聖地の巡礼所や聖堂の維持管理などに使われます。

●金婚式・銀婚式を迎えられる方々へ●

聖イグナチオ教会では、当教会所属の信徒で今年結婚生活50周年、25周年をお迎えになる方々のために、バチカンが発行する「金婚式・銀婚式祝福記念証書」を授与できるように手配させていただいています。

ご希望の方は、案内チラシをご覧くださいの上、申込書に必要事項を記入して、教会事務室に提出されるか、郵送またはFAXにてお申し込みください。

申込締切は 7月1日(土)(厳守)

祝福記念証書は10月29日(日)10時、結婚感謝ミサにおいて授与される予定です。

ミッション 2030 黙想と分かち合い
～祈り・つたえ・つながり・ともに歩む～
小さな分かち合い

第3回テーマ

「つながりを作ろう、つながりを深めよう

Part2 自分の思いを声に出して伝えよう」

開催日時：5月28日(日)11:15～12:30

場 所：信徒会館 2階203

参加申込：5月14日(日)より受付開始

定 員：20名

プログラム：①シスター品川ヨシ子の講話

②黙想

③分かち合い

*詳細は教会ホームページ、ポスター・チラシでご確認ください。



Family of St. Ignatius

～英語圏から～

復活祭の12時ミサを待つ人々の列は、とても長かった! 家族連れ、顔馴染み、観光客など、中には荷物を引き摺る人もいて、すでに3つも列ができていのに、教会の門の外まで人が溢れていました。「入れるの?」と不安げに尋ねる人もいました。パンデミックによる3年の制限を経て、最大の人数となりました。

「神さまは死んでいない! ノー、ノー、ノー、ノー! 神さまは死んでいない! 彼は生きています!」イースターのお祝いの歌です。英語グループ日曜学校の子供たちは、ご復活について、お姉さんたちによる紙芝居を観て、カテキスタの説明を聞いてしっかり理解した後、力いっぱい歌い上げました。そして、待ちに待ったイースターエッグハントでは、卵を見つけて大喜びでした!

聖イグナチオ教会国際青年会(SIIYM)は、暗く狭

い部屋に身を寄せていました。ピザや大好きなスナックを食べた後、ドキュメンタリー映画「THE POPE: ANSWERS」を観ていました。それは、教皇フランシスコが10人の若者と向き合う様子を描いたものでした。移民、セクシュアリティ、性自認、信教の自由など、彼ら・彼女らにとって重要な問題について、教皇に尋ねます。見ている若者の中には、うなずく人もいれば、もっと質問したいと思う人もいました。

2023年の復活祭。雰囲気は確かに違っていました! 神の言葉を聞き、秘跡を受けようとする熱意が溢れていました! 多くのエネルギーが迸っていました! 多くの喜びがありました! そうです、年に一、二度しかミサに参加しない人たちでさえ、教会が主の復活を祝う時を覚えていたのです! (シスター フロール・フロレーセ)

5月の典礼と行事

1 (月) 労働者聖ヨセフの日		
5 (金) 初金曜日		
7 (日) 復活節第5主日	日曜サロン 11:00～12:30 ヨセフホール	
10 (水)	水曜ティーサロン 12:00ミサ後 傾聴ルーム 13:00～15:00 ヨセフホール	
14 (日) 復活節第6主日	子どもとともにささげるミサ 10:00 新受洗者・転入者オリエンテーション 10:00 ヨセフホール ミサがわかるセミナー 13:00 ヨセフホール	世界広報の日・献金
17 (水)	クリプタに安置され5月に命日を迎える方々のためのミサ 12:00 『社会問題とカトリック教会の考え 2023年度連続セミナー』 「シノドス」とともに歩む教会を目指して 18:30 ヨセフホール シノドスの霊性(1)ーシノダリティを祈りと分かち合いで体験ー	講師：酒井陽介神父
21 (日) 主の昇天の祭日	堅信準備会① 11:15	
24 (水)	堅信準備会(平日①) 18:45 水曜ティーサロン 12:00ミサ後 傾聴ルーム 13:00～15:00 ヨセフホール	
25 (木)	ヤングオールド映画会 「汚れなき悪戯」 13:00 ヨセフホール	
28 (日) 聖霊降臨の主日	堅信準備会② 11:15 教会案内ツアー ① 10:30 ② 11:00 ミッション2030 小さな分かち合い 11:15 信徒会館203 教会活動連絡会議 13:00 ヨセフホール	
31 (水)	堅信準備会(平日②) 18:45	

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定が変更になる場合があります。最新情報は聖イグナチオ教会ホームページでご確認ください。

主任司祭：高祖 敏明

助任司祭：ボニー・ジェームス
グエン・タン・ニャー
サトルニノ・オチョア
柴田 潔

協力司祭：ヘネロソ・フローレス
ハビエル・ガラルダ
関根 悦雄

マヌエル・シルゴ
シスター：イベッテ・サンチェス
(セントロ・ロヨラ)

フロール・フロレーセ
(ジョン・デ・ブリット イングリッシュセンター)

ミサ参加方法はホームページ、教会事務室で確認してください。

ミサの時間 Mass

【平日 Weekday】主聖堂 Main Chapel
7:00/12:00/18:00

【土、日曜日 Saturday & Sunday】主聖堂 Main Chapel
土曜 18:00 日曜 7:00/8:30/10:00/18:00
12:00 (English) /13:30 (Español) /
15:00 (Việt Nam)

【月の第1日曜日 1st Sunday】
Our Lady's Chapel
12:30 (Português) /16:00 (Polski)

【月の第2第4日曜日 2nd & 4th Sunday】
Our Lady's Chapel 16:30 (Indonesian)

カトリック麹町教会
(聖イグナチオ教会)

〒102-0083
千代田区麹町6-5-1
TEL 03-3263-4584
FAX 03-3263-4585
<http://www.ignatius.gr.jp>



ホームページ



フェイスブック

『マジス』へのご意見ご要望などのお便りは事務室までお寄せください。

*本文中の役職名等は、寄稿もしくは取材時のものです。